

こがねっとレポート

2026.10.17 発行
発行：小金井・生活者ネットワーク
発行責任者：田頭祐子

no.163

政治は あなたの暮らしを 良くする道具です

日々の暮らしからの声と
市政をつなぐ、
あなたの声をお寄せください。

 小金井・生活者ネットワーク

「井戸端ネット」のお誘い

昔の【井戸端会議】のように気になる
テーマを持ち寄り、おしゃべり会を
します。お気軽にご参加ください。

テーマ：福祉のあれやこれや
～親の介護、自分の老後～

日時：11月19日(木)14～16時
(事務所は13～17時までオープン)

会場：ふらりねっと
(小金井ネット内交流スペース)

校庭プレーパークとは

「いつからでしょう、子どもが遊びの主体者から（大人が準備した）遊びの消費者になっていったのは。いつからでしょう、子どもの遊びを、大人が過度に制限（うるさいから、危険だから、汚れるから等）するようになったのは。」と、7月に東京・生活者ネットワークで視察した、昭島市立光華小学校のプレーパーク報告書には書かれています。

光華小では東京都の補助金事業に2年連続で採択され、校庭のデッドスペースにプレーパークを作りました。子どもたちはやってみたい遊びを考え出して、巨大ハンモックなどの遊具を先生や地域の大人と一緒に作り、休み時間、放課後、早朝遊びの時間でも自由にのびのびと遊んでいます。

遊びこそ学び

光華小の
校庭プレーパークから



「遊ぶように学ぶ」こと から子どもの幸せに

光華小学校では主体性や創造性、実行力を引き出す核は「遊び」だと考えています。「本来の子どもの遊びを子どもに返したい。自由な遊びの中で経験し学ぶ多くの出来事が、子どもたちのウェルビーイングな生き方へ幸せにつながる。」校長先生の言葉は、今すべての子どもたちに届けたいと思います。

国の安全保障は 食の自給から！

米国産
生ジャガイモの輸入解禁は、
対米交渉上の外交カード？



(株)奄美新聞社より提供

はじめに 突如浮上した 生ジャガイモ 全面解禁への動き

日本ではこれまで、病害虫の侵入リスクを主な理由に米国産生ジャガイモの輸入を禁止してきました。しかし長年、米国から市場開放を求められており、政府は8月6日の自民党会合で全面輸入解禁の検討を正式表明しました。

農水省は北海道などの主産地関係者に説明会を開催したものの、一般消費者向けの公聴会は予定していません。これに対し、JAグループ、生活クラブ生協、日本消費者連盟などは、9月以降、農林水産大臣あてに反対要請書を送々と提出。八王子市議会など地方議会からも反対の意見書が提出されています。

この動きの背景には、病害虫の侵入・蔓延リスク、ポストハーベスト農薬の使用拡大への懸念、消費者の「知る権利・選択する権利」の軽視、そして食料主権や食料安全保障に逆行することへの強い危機感があります。

残留農薬と、 地中20年の害虫リスク

あまり知られていませんが、現在、輸入が認められている生ジャ

ガイモはポテトチップス加工用に限られています。民間機関「農民連食品分析センター」の調査※1によると、市販菓子の分析結果は基準値内であるものの、「輸入原料」と「国産原料」で検出される農薬の傾向に明確な差が見られました。特に



重大なのは、発芽抑制剤「クロルプロファム」の検出です。これは国内農業では使用が一切認められていない化学物質であり、輸入原材料を通じて間接的に国民の口に入っている実態が浮き彫りになっています。

原則禁止の理由は、種イモとしての不正利用等でジャガイモシストセンチュウなどの害虫が侵入・蔓延するのを防ぐためです。地中で15～20年生き延びる害虫が定着すれば国内農業の基盤を根底から揺るがすため、農業関係者や専門家は絶対反対を訴えています。

米国産生ジャガイモの 輸入解禁を進めたい 3つの理由

政府の主な理由は3点あります。1つ目は米国からの長年の市場開

結論

安全保障、
国民の食の安全や
国内農業の保護を
最優先に

政府は戦略三文書の見直し方針など、外交・防衛力の強化を進めています。しかしその裏で進むこの輸入解禁問題では、米政権の要求を背景に、検疫手続きなど通常2～3年かかると思われる検証手続きを1年程度とする動きなど、大幅な前倒しの懸念が浮上しています。これは国民の食の安全や国内農業への深刻な影響を軽視し、対米関係の維持を優先しているのかと、強い疑念を抱かせます。

真の安全保障とは、軍事や外交だけでなく「国民の命と健康」、そして「食料安全保障」を守ることです。また、消費者への分かりやすい情報提供や直接意見を聴く場が、現時点で十分に設けられていない点も大きな問題です。政府は「結論ありき」の拙速な協議を改め、国民への丁寧な説明と主権者の声に耳を傾けるべきです。 田頭祐子

映画 「ネルソンさん、 あなたは 人を殺しましたか？」



「斬」「野火」などの戦争作品を世に送り出したアレン・ネルソンさんの映画制作したことを知ったのは公開間近の8月でした。8年の歳月をかけて完成した渾身の作品「ネルソンさん、あなたは人を殺しましたか？」の上映を心待ちにし、公開1週間後に立川で鑑賞しました。

平日の昼間にもかかわらず、ほぼ満席で人気の高さがうかがえました。私も十年ほど前、ネルソンさんの講演を記録したブックレットを読み、衝撃を受けました。多くの人に伝えたいという思いから50冊を手して知人に配ったことがありますが。塚本監督もまた、ネルソン

さんが語る戦争の真実を映像で伝えたいと願い、後世に残る反戦映画を作られたのではないのでしょうか。PTSDからの回復・語り続けた理由

差別と貧困から抜け出すため18歳で米軍海兵隊に志願したネルソンさんは、ベトナム戦争の最前線で壮絶な体験をします。帰国後はPTSDに苦しみ、暴力や自殺未遂、ホームレス生活を経験しますが、支える人たちに助けられ回復。その後は「若者を戦場に送ってはならない」と全国で自身の体験を語り続けました。

映画は加害者であるネルソンさんの視点で描かれ、まるで自分が戦場にいるような感覚になります。そして観る者に問いかけられます。「あなたなら、人を殺しますか？」憲法が変えられ、戦争のできる国へと進もうとしている今だからこそ、多くの人に観てほしい映画です。 中嶋直子

